



【ガット(GATT)】関税貿易一般協定。

【食糧管理制度】米麦の需要動向や流通実能に即応し、需給事情の変動に的確に対応させる制度。

【ウルグアイ・ラウンド】ガットの関税引き下げ交渉。新たな多国間交渉がウルグアイで開催されたことにちなみこう呼ぶ。農業をはじめ知的所有権、サービス貿易など15分野に分けて交渉が進められている。

【ウエーバー条項】ガットの自由化義務免除規定条項。

【EC】欧州共同体。

味・量・それとも健康？

さまざまな米のお国がら

に、なかなか日本の考えだけが尊重される状況にはありません。今日はいいい機会ですが、私たちは世界の米の動きの中で、日本の米を考えるとということを常に持っていたいと思います。また、

市場開放という外のことのみにとらわれ、今後の日本の農業をどうするかという最も大事な課題を忘れたり、後回しにしたりしては、それこそ問題ではないかと思っています。

勝部・まず「米」というものについて、お国自慢なども含めて伺いたいと思います。

おいしい米はまだ作ってません。消費量は、日本同様減少傾向ですが、まだ一人当たり年間百二十十は食べてますから、日本の約二倍です。統計では五〇%ぐらいの人が三食、米を食べています。将来は少し心配ですが、竹井・生協事業としても単品では米が中心なんです。皆さんへ

のようないい米は、きつと典型的なアメリカ人のものかもしれません。私ももちろんお米はおいしいと思うのですが、区別はなかなかつかないのです。

玄・最近になって韓国は自給化しています。二、三年前までは食糧不足で、質より量で生産し、今では百万トンぐらいい余ってます。産業の五五%ほどを占める農業のほとんどは専業です。ただ、量中心でしたから、日本のように



玄氏

大韓

どれだけ安くおいしい米を供給するかが私の活動の中心課題です。ところが、知れば知るほど、米の生産、流通、食糧制度が分かんなくなります。結局、米に関しては消費者不在の形で進行していると思います。

カリフォルニアの人々が米を食べるかどうかが、米の問題を考える際、米とひと口に言いますが、私たちが日本人としては米のイメージがちよっと違います。今日二つの見本を持ってききましたが、一つはおなじみのジャポニカ米。空港でギフト用に売っているものです。ジャポニカ米はカリフォルニアでも人気が高

いることに、大変憤りと疑問を感じています。経済的なことだけでなく、精神的、文化的、いろんな面で米は非常に人間生活とかかわりの深いものと痛感しています。

藤原・農業に取り組んで二十五年ばかりになります。米について反省してみますと、数年前まで私たちは、韓国同様質より量で進んできました。それが今日、秋田の米は味で遅れてると批判され、たまたまアキタコマチの出現で、ササニシキ、コシヒカリと肩を並べられる米が作れるようになったわけです。作りさえすればではなく、売れる米を作ることが私たちの課題だと思っていますし、自由化攻勢、産地間競争の中、いかにコストを下げていくかだと思っています。



竹井氏

次のページへどうぞ